

時間泥棒とモモ

秋 岡 美登恵

独立行政法人国立病院機構九州医療センター
診療情報管理室主任
分類小委員会委員

診療情報管理士をはじめ、医療に携わる者の責務は、直接的・間接的に、人の命を守ることにある。そして、その人の命は、他のあらゆる生命と同じく、地球という奇跡の星から生まれてきた。しかし、他の生命と違って、人間だけは、自然から生まれつつも、その自然に働きかけ、それを変革してきた。その結果、人間にとっての有用性・効率化等の概念のもと、多大な利便性を獲得したが、その反面、多くのものを失ってきたように思う。その最たるものの一つが「時間」である。

交通手段、通信技術等の発達によって、多くのことが考えられないくらい効率よくスピーディに行なうことができるようになった現代。しかし、皮肉なことに、それは人々にゆとりある「時間」を与えることにはならなかった。逆に、時間に追われ、ゆとりを失って、人間本来の生き方を忘れてしまった現代の人々。私自身も毎日の仕事に追われ、「1日が48時間あったらいいのに・・・」と口走ったことがある。この時、それを聞いた友人から、「じゃあ、あなたの人生が半分になってもいいの?」と言われ、ミヒヤエル・エンデの『モモ』のことを思い出したのを覚えている。

『モモ』、それは時間泥棒に盗まれた時間を人間に取り戻してくれた女の子の不思議な物語。モモは、黙って話を聞くだけで、大人や子供の心を溶かし悩みを解消させる不思議な能力を持っていた。だから、彼女の周りにはいつもたくさんの人達が集まっていた。しかし、「時間」を人間に儉約させることにより、世界中の余分な「時間」を独占しようとする「灰色の男たち」の出現により、町中の人々はとりとめのないお喋りやゆとりのある生活を次第に失っていく。これは、スケジュール手帳に管理され、時間に追われ、わき目もふらず次から次へと仕事をこなす、まさに現代社会の人間への警鐘だろう。「忙しい」とは心が亡びると書く・・・。

折りしも「七夕」の季節。皆さんも診療情報管理士を目指し、日常の仕事に、勉学に、日々寸暇を惜しみ励んでおられることでしょうか。でも、たまには、悠久の時の流れに思いを馳せ、夜空を見上げてみませんか。そして、心にちよっぴり潤いを与えてやりませんか。生まれながらにして何人にも平等に与えられた1日24時間という時間。だからこそ、その一瞬一瞬を慈しみ（そうそう、「一期一会」という言葉もありましたね）、心にゆとりを持ち、人間らしさを忘れずに、大切に生きていきたいものだ。